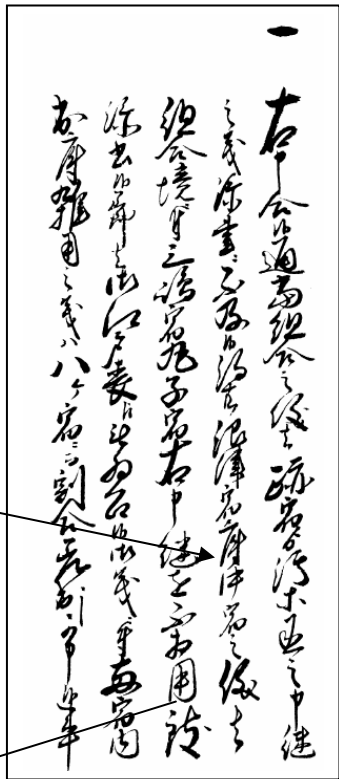


# よく出てくる「二而」



(k)は、最初の **あ** は、第 22 回で **あ** と出てきた「出」です。しかし、第 22 回から 14 回も経っていますから、忘れていても仕方ありません。何回も“あ、そうだった”と薄塗りの記憶を重ねることが大切だと思います。

次の **府** は、第 33 回で「府中宿」と出てきた「府」です。この場合は、「出府」で「江戸に行く」ということです。次の **雑** は、それほど崩していないので、「雑」と読めます。次の **用** は「雑」と組み合わせると、「用」でしょう。「用」の左の“払い”がない、と思うかもしれませんが（実際に同じ文



章で第 34 回には **用** という字が出てくる、例えば「角」という字も **角** という崩し方をするように、左の払いは、崩してなくなってしまうことがあります。

最後の 3 文字は「之義八」で、「出府雑用之義八」となります。

(l)は最初が「**ハ**ケ宿」で、次の **二** は「二」です。次の **而** は、第 17 回で、参考として出しておきましたが、「而」という字で「て」と読みます。これは頻出する字です。「二」と半ばセットで「**二而**」と、よく出てきます。

次の **割** は「割」でしょう。次は「合」です。「割合」というのは、「割り合う」ということで、この場合は、8ヶ宿で分けるということです。**差** は、少し崩れていますが、次の **出** が「出」なので、「割合差出し」です（**い**の部分は、平仮名の「し」という字が入っています）。**可** は、一見するとよくわかりませんが、次の **申** が「申」のようですから、「可申」だとわかります。次の **候** は「候」で、最後の **事** は「事」です。この辺は、慣れてくると、文章の流れ的に勝手に読めます。(l)は「ハケ宿二而割合、差出し可申候事」となります。

